

授業科目名：心理デザイン研究法特論

科目コード	10X491
配当学年	修士課程・博士後期課程
開講年度・開講期	前期
曜時限	金曜 4 時限
講義室	吉田キャンパス 総合研究 2 号館第 2 演習室
単位数	2
履修者制限	心理・教育統計学に関する学部卒業レベル以上の知識を有すること
授業形態	講義・演習
使用言語	日本語
担当教員 所属・職名・氏名	高橋雄介(教育学研究科),

授業の概要・目的

授業の目標は、デザイン学・心理学・教育学などの分野における量的なデータを用いて、仮説検証型の研究を行うために必要な有効かつ高度な統計手法に関する知識を身に付け、それらの統計手法を自らの研究に活用して、研究成果を相手に対して正確にかつ効率よく伝えることができるようになることである。具体的には、以下の「授業計画と内容」に示した統計手法について概説し、それぞれの統計手法の論理・使われ方・分析事例について紹介する。また、受講者には、これらの手法を用いて検討を行った実証論文を検索し、その文献について調べて報告する課題を課すことがある。

授業計画と内容

項目	回数	内容説明
1. イントロダクション	1	心理統計学における新たな展開を知る
2. 効果量	1	効果の大きさを表現する
3. 信頼区間	1	区間推定の考え方を知る
3. 検定力分析	1	実験・調査の信頼性や経済性を高める
4. 共分散分析	1	分散分析の切れ味を鋭くする
5. 階層的重回帰分析	1	分散説明率の増分を確かめる
6. 高次積率を含めた回帰分析	1	回帰分析で因果関係が分かる?
7. パス解析と構造方程式モデリングの基礎	1	
8. 交差遅れ効果モデル	1	複数時点のデータから因果関係に踏み込む
9. 多母集団同時分析	1	複数の群で傾向の違いを調べる
10. 行動遺伝学モデル	1	ふたごのデータから遺伝と環境の影響を切り分ける
11. 媒介分析	1	間接効果を適切に評価する
12. 潜在変化モデル	1	2時点の縦断データから変化をとらえる
13. 潜在成長曲線モデル(1)	1	3時点以上の縦断データから変化をとらえる
14. 潜在成長曲線モデル(2)	1	3時点以上の縦断データから変化をまとめる
15. 潜在軌跡モデリング	1	一様でない変化の動態を扱う

参考書等

『心理統計学の基礎—統合的理解のために—』(南風原朝和・著, 有斐閣アルマ)

『伝えるための心理統計』(大久保街亜・岡田謙介・著, 勁草書房)

『多変量データ解析法—心理・教育・社会系のための入門』(足立浩平・編, ナカニシヤ出版)